

事業実施結果報告書

障害者芸術文化活動普及支援事業

団体名称	社会福祉法人グロー(GLOW)～生きることが光になる～	代表者	理事長 北岡 賢剛
所在地	滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地 2		
事業担当者	法人本部企画事業部 齋藤誠一、木元聖奈		
連絡先	0748-46-8118	メールアドレス	kimoto-seina@glow.or.jp

1 事業概要・成果報告

<p>取り組んだ事業の概要、事業実施により得られた成果</p> <p>※できる限り具体的に記入すること</p>	<p>平成 26～28 年度に実施された障害者の芸術活動支援モデル事業で連携事務局を担った実績をもとに、全国 3 ブロックの広域センターと近畿ブロック（広島県含む）、九州ブロック及び未実施都道府県に対して、相談対応を行った。北海道・北東北ブロック、南関東・甲信ブロック、東海・北陸ブロックの 3 つの広域センターは、障害者の芸術活動支援モデル事業を実施しており、相談対応や展覧会開催等のノウハウは十分に有しているが、複数の支援センターを取りまとめる役割（東海・北陸ブロックにおいては、複数の未実施都道府県の掘り起こしを行う役割）は実績がなかったため、事業計画をヒアリングし、ブロック内で県境を越えた連携を図ることや広域センター事業の成果目標の設定等について助言をした。そのうえで各広域センターの取り組みの中で要となる事業について視察し、現場で直接担当者へのヒアリングを行った。広域センターの担当者はどのように取り組めばよいか悩んでおり、ブロックに求められている役割が捉えられていない状況があったため、支援センターに本事業の目的を明確に理解してもらうことの必要性や、ブロック内の支援センターが開催する展覧会等に他の支援センターが参加するような仕組みをつくるなど、できるだけ効率的かつ効果的な手法について助言し、他の広域センターの取り組みを紹介するなどした。</p> <p>広域センターが不在の近畿ブロック及び九州ブロックについては、他の支援センターの取り組みを知り、参考になる事例を共有できるようにという観点でブロック連絡会議を実施したことは、支援センターの不安解消に繋がった。また近畿ブロック、九州ブロック及び未実施都道府県に対しては、障害者の文化芸術や権利保護に関する講義に連携事務局員を派遣した。研修会のチラシ作成やプログラム構成から助言を行い、グループワークの進行も行うなかで、各都道府県の現状から実際に必要な研修内容を整理する支援をし、参加者の満足度に繋がった。</p> <p>全国規模の展覧会等の開催協力では、これまでの相談対応や展覧会開催の実績を活かして、フランス・ナント市で開催される「2017 ジャパン×ナ</p>
--	---

	<p>ントプロジェクト」の日本のアール・ブリュット「KOMOREBI」展の出展依頼に係る支援を行い、関係者を対象に、出展依頼のマニュアルを作成してレクチャーを行うことで協力した。この展覧会には、7つの社会福祉法人が関わっており、いずれも障害者芸術文化活動普及支援事業の実施団体であったことから、相談員やアドバイザーの人材育成にも繋がった。</p> <p>全国27の障害福祉当事者団体が加入する「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク」と連携して、会議に出席して全国の普及支援事業の取り組みを紹介したことや、障害者文化芸術情報ナビ (https://syobungei.net/) に本普及支援事業の紹介や支援センターのリンクを貼ることを調整した。</p> <p>全国連絡会議の開催では、当初広域センターと全国連携事務局、厚生労働省で行うものだったが、全実施団体が連携を図れる場となるよう提案して実施したことで、各団体の課題や解決策となる取り組みの共有ができた。</p> <p>外部への報告会では127名が聴講し、本事業の取り組み紹介や平成31年度には全都道府県に支援センターを設置することに向けた現状と課題、展望について多くの方に発信することができた。同会場に設置した本事業紹介ブースには、文化芸術に取り組む事業所や未実施都道府県等が数多く来訪され、連携事務局員が本事業に関する質問にくまなく対応した。また全国の実施団体のリーフレットやチラシ、支援センター設立・運営マニュアル(40部)等を配付し、本事業の効果的な広報に繋がった。</p> <p>舞台芸術分野の連携事務局である(社福)大阪障害者自立支援協会と厚生労働省と協議し、本事業の全国の実施成果を取りまとめた報告書を作成した。また、「障害者芸術文化活動普及支援事業(美術分野)ウェブサイト (http://renkei-sgsm.net/)」を開設し、一般に広く本事業や実施団体の紹介をするツールとなった。事業報告書は本ウェブサイトで公開する。</p>
--	--

2 事業実績 ※組織図、事業イメージ図等がある場合は添付すること

事業内容及び手法	
※下記(1)については、支援センターを実施した団体のみ記入すること。	
(1)支援センター(都道府県レベル)	
①相談窓口の体制(人数や勤務体制等) ※窓口担当が不在時の対応等についても記入すること。	

※専門家アドバイザーも含め、どのような相談体制で事業を実施したのか、できるだけ具体的に記入すること。

②人材育成のための研修実績

(ア)著作権等の権利保護に関する研修

※研修内容、回数、研修方法、講師等の実績についても記入すること。

(イ)障害者への芸術文化活動の支援方法に関する研修

※研修内容、回数、研修方法、講師等の実績についても記入すること。

※(ア)と(イ)を同時に行った場合などは、それぞれの欄に表記し、注をつけるなど、明確に記入すること。

③関係者のネットワークづくり※ネットワーク構築方法、ネットワークを活用した具体的な取組実績について、できる限り具体的に記入すること。

④参加型展示会・公演等の開催

※展示会や公演等の成果発表の企画方法や開催について、その取組実績をできる限り具体的に記入すること。

⑤協力委員会の設置

※別添「協力委員名簿」を作成するとともに、協力委員会の実施内容や実施回数等について具体的に記入すること。

⑥調査・発掘※調査方法、調査に伴う専門的人材についても記入すること。

⑦評価・発信

※評価方法、発信方法、評価委員会の委員選考方

<p>法についても記入すること。</p>	
<p>⑧都道府県との連携</p> <p>※都道府県との連絡体制や都道府県と協力して実施した事業の内容について記入すること。</p>	
<p>⑨障害者芸術・文化祭との連携※全国障害者芸術・文化祭やサテライト開催と連携した実績について、具体的に記入すること。</p>	
<p>⑩文化プログラム等について</p> <p>※東京 2020 参画プログラム、beyond2020 への申請内容、取組実績などについて記入すること。</p>	
<p>⑪その他</p>	

--	--	--

※下記（２）については、広域センターを実施した団体のみ記入すること

(2) 広域センター（ブロックレベル）		
<p>①相談窓口の体制（人数や勤務体制等）</p> <p>※支援センターに対する相談体制、未実施都道府県に対する支援体制を記入すること。</p> <p>※窓口担当が不在時の対応等についても記入すること。</p> <p>※専門家アドバイザーも含め、どのような相談体制で事業を実施したのか、できるだけ具体的に記入すること。</p>		
<p>②人材育成のための研修計画</p>		
<p>(ア)支援センターに対する研修</p> <p>※研修内容、回数、研修方法、講師等の実績についても記入すること。</p>		

**(イ)未実施都道府県に
対する研修**

※研修内容、回数、研修
方法、講師等の実績につ
いても記入すること。

※(ア)と(イ)を同時に行っ
た場合などは、それぞれの
欄に標記し、注をつけるな
ど、明確に記入すること。

**③関係者のネットワー
クづくり**※ネットワーク構築
方法、ネットワークを活用し
た具体的な取組実績につ
いて、できる限り具体的に
記入すること。

**④ブロック連絡会議の
開催**

※実施団体向けの勉強会
や外部への報告会の内
容、開催時期等について、
実施した内容を具体的に
記入すること。

⑤障害者芸術・文化祭との連携

※全国障害者芸術・文化祭やサテライト開催と連携した実績について、具体的に記入すること。

⑥文化プログラム等について※東京 2020 参画プログラム、beyond2020 への申請内容、取組実績などについて記入すること。

⑦その他

※下記（3）については、連携事務局を実施した団体のみ記入すること。

(3)連携事務局

①事務局の体制

※組織図等があれば添付すること。

- I 連携事務局業務の進捗管理
田端一恵（社会福祉法人グロー法人本部企画事業部副部長
アール・ブリュットインフォメーション&サポートセンター所長）
- II 広域センターに対する支援（アドバイス等）
木元聖奈（アール・ブリュットインフォメーション&サポートセンターアドバイザー）
齋藤誠一（社会福祉法人グロー法人本部企画事業部文化芸術推進課）
著作権等に関する専門家：天野真佑子（法テラス滋賀弁護士）
美術に関する専門家：田平麻子（滋賀県立近代美術館主任学芸員）
はたよしこ（ボーン・ガリス・アートミュージアムANO-MAアートディレクター）
- III 全国連絡会議の企画・運営
木元聖奈、竹岡寛文（障害者芸術文化活動普及支援事業連携事務局）
- IV 全国規模の展示会等の開催
西川賢司（社会福祉法人グロー法人本部企画事業部文化芸術推進課長）
木元聖奈
- V 国内外の情報収集・情報発信
竹岡寛文、齋藤誠一
- VI 広域センターのブロック研修への参加・協力
木元聖奈、田端一恵
- VII 全国の成果取りまとめ及び報告会の開催
竹岡寛文、木元聖奈
- VIII 障害者団体、芸術団体等との連携
西川賢司、齋藤誠一

②事務局の行った業務

※広域センターのとりまとめ役として実施した業務について、具体的に記入すること。

- I 広域センターへの支援
これまでの相談支援実績及びモデル事業連携事務局を3年間担ったノウハウを活かし、連絡会議の運営方法や広域センターの役割の整理などに関する相談支援を行った。事業開始後の電話ヒアリングで、事業計画を聞き取り、要となる取り組みについては現地視察を行った。
- II 広域センターのブロック連絡会議、展示会等への参加・協力
北海道・北東北ブロック+宮城県、南関東・甲信ブロック+栃木県、東海・北陸ブロックの3ブロックの広域センターが実施したブロック連絡会議や展示会等を視察しヒアリングを実施し、アドバイスをを行った。
 - ① 北海道・北東北ブロック+宮城県
H30.1.20（土）,21（日）/ギャラリー大通り美術館、札幌市生涯学習センター/ブロック展示会とギャラリートークの視察、ブロック連絡会議への出席、関連研修会の視察
 - ② 南関東・甲信ブロック+栃木県
H29.12.6（水）/（社福）愛成会/第3回ブロック会議に向けた打合せ

③ 東海・北陸ブロック

H29. 11. 23 (木・祝) /町屋交流会館高田小町、旧今井染物屋/ブロック
展示会視察、事業進捗状況のヒアリング

III 近畿・九州ブロック及び未実施都道府県へのフォロー

近畿ブロック（広島県のNPO法ひゅーるぽんを含む）と九州ブロック
においては、広域センターが不在のため、当該ブロックの実施団体への支
援を行い、美術分野の実践報告会に参加いただいた。また大阪障害者自立
支援協会と協力し、それぞれにブロック会議を開催した。本事業を実施し
ていない都道府県に対しては、大阪市交流センターで開催した未実施都道
府県への事業説明会へ出席した他、山口県からの依頼を受けて、障害者ア
ートセミナーで芸術文化活動を行う事業所の取り組み紹介や作者の権利保
護に関する講義を行った。

(i) 九州ブロック会議

H29. 11. 20 (月) /TKP博多駅筑紫ロビジネスセンター803/出席者：12
団体 20 名/実施団体の事業進捗状況報告、意見交換

(ii) 近畿ブロック会議

H29. 12. 20 (水) /アクティ近江八幡研修室/出席者：14 団体 21 名/実施団
体の事業進捗状況報告、意見交換

(iii) (社福) 南高愛隣会の権利保護研修への講師派遣 ※九州ブロック

H29. 12. 5 (火) /諫早市社会福祉会館/出席者：約 20 名/研修「障がいの
ある人のアートと著作権について」の講義とグループワーク

(iv) (社福) 和歌山県福祉事業団の権利保護研修への講師派遣

※近畿ブロック

H30. 1. 25 (木) , 26 (金) /県民交流プラザ、県立情報交流センター/約 40
名/研修「利用者の制作された作品を事業所のパンフレットに仕様するため
にはどのようなことが大事なのか!?’の講義とグループワーク

(v) 山口県の障害者アートセミナーへの講師派遣 ※未実施都道府県

H30. 2. 21 (水) , 22 (木) /ときわ湖水ホール、徳山駅賑わい交流施設/約
40 名/造形活動現場体験、権利保護に関する取組、展覧会開催方法等の講義

IV 全国規模の展覧会等の開催協力

平成 29 年 10 月に文化芸術創造都市として世界をリードするフランス・
ナント市を代表する文化施設においてフランスと日本の障害者の文化芸術
国際交流事業が開催された。本事業を周知することは、優れた芸術の生み
出し手としての障害者の側面を社会に浸透させ、共生社会の実現に寄与す
ることもつながることから、障害者の文化芸術国際交流事業実行委員会と
連携して、展覧会の開催協力や公演の周知等の関連事業を行った。

(i) 日本のアール・ブリュット「KOMOREBI」展における出展依
頼に係る支援

この展覧会出展者のうち40名が障害者であり、美術分野の全国連携事務局のノウハウを活かして、作品出展までの作者や家族、福祉事業所等との調整や出展依頼に関するマニュアル作成、レクチャーを行い、研修会の開催に協力した。

(ii) 全国規模の公演

フランス・ナント市で行われる障害のある人のパフォーマンス公演について、国内でのプレビュー公演と、開催後の帰国公演を行うまでの一連のプロセスを、NPO法人全国地域生活支援ネットワーク等と連携して開催運営に協力した。

- ① 山梨県会場 H29.7.29(土),30(日)/八ヶ岳名水会/講演、映画上映、KOMOREBI展作品公開他
- ② 島根県会場 H29.8.19(土)/島根県県民会館/瑞宝太鼓、いわみ福祉会・芸能クラブ公演他
- ③ 長崎県会場 H29.8.29(火)/シーハットおおむら/瑞宝太鼓、いわみ福祉会・芸能クラブ公演他
- ④ 埼玉県会場 H29.9.6(水)/秩父宮記念市民会館大ホール/瑞宝太鼓公演、トークセッション
- ⑤ 東京都会場 H29.9.7(木)/space&café ポレポレ座/小室等、きたやまおさむによるトーク「障害者の芸術表現の魅力」
- ⑥ 北海道会場 H29.9.9(土),10(日)/岩見沢市民会館/シンポジウム、トークセッション、アール・ブリュット作品展他
- ⑦ 愛知県会場 H29.9.17(日)/名古屋国際センターNIC別棟ホール/バリアフリー映画上映、プレゼンテーション、シンポジウム他
- ⑧ 東京都会場 H29.10.5(木)/新東京會館/小室等、谷川賢作によるトーク「障害者の芸術表現の魅力」
- ⑨ 山梨県会場2 H29.11.18(土)/山梨学院大学/シンポジウム、湖南ダンスワークショップ公演他
- ⑩ 福岡県会場 H29.12.9(土)/JR博多シティ会議室/プレゼンテーション、シンポジウム、瑞宝太鼓他
- ⑪ 滋賀県会場 H29.11.5(日)/栗東さくら芸術会館/湖南ダンスワークショップの公演、ナント市での開催模様の映像報告他

V 全国の情報収集・情報発信

(i) ウェブサイトの運営

本事業の概要や全国の障害者芸術文化活動支援センター23か所の紹介、美術分野の支援センターからの研修会や展覧会等のお知らせやレポートを発信するウェブサイトを立ち上げ、実施団体の各事業について広く情報を発信した。(URL <http://renkei-sgsm.net/>)

(ii) ポスターセッションへの参加

平成 30 年 2 月 9 日から 11 日に滋賀県大津市で開催されたアメニティーフォーラム 22 は全国から福祉関係者が約 1500 人集まる催しで、美術分野の障害者芸術文化活動支援センターのリーフレットやチラシ、報告書等を設置したブースを出展した。ブースでは来場者から寄せられる普及支援事業に関する相談に対応した。

VI 全国の成果取りまとめ

平成 29 年度障害者芸術文化活動普及支援事業の成果報告書について、構成案や記入フォーマットの作成等を厚生労働省と大阪障害者自立支援協会（ビッグ・アイ）と協議してまとめた。

VII 障害者団体、芸術団体等との連携

全国 27 の障害福祉当事者団体が加入する「2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク」（事務局：全国手をつなぐ育成会）と連携し、会議開催にあたっての資料の作成補助や団体間の連絡調整などに協力した。ネットワークが開設された障害者の文化芸術に関するポータルサイト「障害者文化芸術情報ナビ（<https://syobungei.net/>）」では、普及支援事業の紹介や支援センターのリンクを貼ることを調整し、全国の障害福祉関係団体との繋がりを構築した。

③全国連絡会議の開催

※広域センター等向けの勉強会や外部への報告会の内容、開催時期について、実施した内容を具体的に記入すること。

I 全国連絡会議の開催

第 1 回 H29.9.26（火）/国際障害者交流センタービッグ・アイ

出席者：全国の実施団体、自治体関係者、厚生労働省など 57 名

内容：第 1 回の会議は、全実施団体に呼びかけ開催した。事前に事業シートとして、各都道府県の現状・課題、課題に向けての取組方法、実施スケジュールをまとめて提出してもらい、それをもとに美術分野と舞台芸術分野に分けてグループワークを行った。「障害者の芸術活動支援モデル事業」から事業を行う団体と今年度初めての団体が混ざるように 6 名程度のグループをつくり、各団体の課題を付箋に書いて全体で共有した。それに対して、これまでの取り組みから解決策となる事例などを紹介しあった。

第 2 回 H30.1.19（金）/厚生労働省

出席者：広域センター、全国連携事務局、厚生労働省 17 名

内容：広域センターの（社福）ゆうゆう、（社福）愛成会、（社福）みんなでいきる、全国連携事務局のグローとビッグ・アイ、厚生労働省で行った。各ブロック内の現状報告についての意見交換、今年度の取りまとめについて協議した。

第 3 回 H30.3.9（金）/厚生労働省

出席者：全国 20 か所の実施団体、厚生労働省 31 名

内容：第1回のグループワークで挙げられた課題等に対し、今年度事業でどのような対応をしたかワールドカフェ形式で振り返り、普段の業務に追われる中で見失いがちな支援センターの意義や本事業の有用性を再確認した。午後からは、日本ファンドレイジング協会の鴨崎貴泰氏を講師に社会的インパクト評価ロジックモデル構築研修を行った。事業の目的を整理し、中期的また長期的なアウトプット（成果）を理論的に組み立てることは各団体の今後の事業実施に活かされるものとなった。

II 外部への報告会

「障害者芸術文化活動普及支援事業実践報告会」

H30.2.9（金）/びわ湖大津プリンスホテル / 出席者：127名

登壇者：古城亜耶美（〔社福〕ゆうゆう）、小川由香里（〔社福〕愛成会）、坂野健一郎（〔社福〕みんなでいきる）、齋藤誠一（〔社福〕グロー）、鈴木京子（〔社福〕大阪障害者自立支援協会/ビッグ・アイ）、大塚千枝（厚生労働省）

進行：竹岡寛文、木元聖奈（社会福祉法人グロー）

内容：広域センターと全国連携事務局、厚生労働省が登壇し、普及支援事業を全国47都道府県に広げていくことに向けた現状と課題、展望について議論した。（意見交換の内容は別添報告書 P.73-75 に掲載）

III 広域センター、近畿・九州ブロック向けの研修会

(i) 障害者芸術文化活動普及支援事業実践報告会

H30.2.9（金）/びわ湖大津プリンスホテル

参加団体：（社福）はる、（社福）愛隣園、（社福）みずほ厚生センター、（社福）ゆうかり、（社福）大阪障害者自立支援協会、（一財）たんぽぽの家、（社福）和歌山県福祉事業団

(ii) アール・ブリュット国際フォーラム

H30.2.10（土）/びわ湖大津プリンスホテル

参加団体：（社福）ゆうゆう、（社福）みんなでいきる、（社福）愛成会（社福）はる、（社福）愛隣園、（社福）みずほ厚生センター、（社福）ゆうかり、（社福）大阪障害者自立支援協会、（一財）たんぽぽの家、（社福）和歌山県福祉事業団

IV 全国連携事務局間の会議

舞台芸術分野の全国連携事務局を担う大阪府障害者自立支援協会と当法人と厚生労働省で月1回程度の会議を行い、本事業全体の進捗管理や成果の取りまとめ等について協議を行った。

(i) H29.6.26/厚生労働省/

内容：事業の進め方、広域センター不在のブロックへの支援について

- (ii) H29. 8. 3/厚生労働省/
内容：ブロックフォロー業務、第1回全国連絡会議について
- (iii) H29. 9. 8/厚生労働省/
内容：第1回連絡会議の進行、ブロック会議の進捗確認について
- (iv) H29. 9. 26/ビッグ・アイ/
内容：未実施都道府県への説明会、ウェブサイトの開設について
- (v) H29. 11. 1/大阪市国際交流センター/
内容：ウェブサイトの開設、報告書の作成について
- (vi) H29. 12. 20/アクティ近江八幡/
内容：ウェブサイトの開設、実施団体向け研修会について
- (vii) H30. 2. 9/びわ湖大津プリンスホテル/内容：報告書の作成について
- (viii) H30. 3. 9/厚生労働省/内容：報告書の進捗確認、業務分担について

④障害者芸術・文化祭との連携※全国障害者芸術・文化祭やサテライト開催と連携した実績について、具体的に記入すること。

⑤文化プログラム等について

※東京 2020 参画プログラム、beyond2020 への申請内容、取組実績などについて記入すること。

⑥その他

※下記については、全実施団体が記入すること。

事業の実施により得られた成果の今後の活用について

※事業の実施により得られた成果の今後の活用方法について具体的に記入すること。

次年度も全国連携事務局を実施できる場合には、以下のとおり今年度の事業成果を活用する。

全国3ブロックの広域センターについては、次年度も引き続き事業採択を受けた場合には、今年度の取り組みを振り返り助言を行い、2年目の事業運営がスムーズにスタートするよう支援する。新たに広域センターを務める団体に対しては、今年度の広域センターへの支援で挙がっていた課題点、また解決策となった取り組みについて情報提供することで、円滑な事業運営のサポートを行う。

広域センターが不在のブロック及び未実施都道府県に対しては、対象ブロックや都道府県に必要と思われる研修会のプログラム構成への助言や連携事務局員の講師派遣を行うことで、本事業実施の機運を高め、技術的な支援を行い、平成31年度には全国7ブロックでの広域センター・全国47都道府県での支援センター立ち上がることに繋げる。

全国連絡会議で各団体からあげられた課題や解決策となる取り組みについては、項目ごとに整理したため、広域センターや支援センター、未実施都道府県などの相談対応で必要に応じてデータ提供する。また、日本のアール・ブリュット「KOMOREBI」展の出展依頼に係る支援で作成した出展依頼マニュアルについても同様に活用する。

「障害者芸術文化活動普及支援事業（美術分野）ウェブサイト（<http://renkei-sgsm.net/>）」で、引き続き本事業や実施団体の紹介を行うとともに、事業報告書を本ウェブサイトで公開する。

「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク」と引き続き連携し、全国障害者文化芸術情報ナビ（<https://syobungei.net/>）で、本普及支援事業の取り組みを

周知するため、支援センターのイベントや展覧会などを紹介して情報発信に努める。

外部への報告会では本事業の現状と課題、展望について議論したなかで、全国連携事務局は全国の支援センターが一堂に会する場の設定について取り組むこと、そして各ブロックで行われている出来事により効果的な繋がりや個別性が高いものを普遍化して情報共有を図ることが必要であると確認した。連絡会議を早期から設定し、事業の円滑な運営の支援を行うことや、ウェブサイトやメーリングリストを活用して連絡会議の内容や全体で共有すべき事例などを支援センター及び広域センターにフィードバックしてその環境を整える。